

カミーノ・デ・サンティアゴ

～歩いてみませんか、世界で一番幸せな道“スペイン巡礼路”

2月6日(土曜日)香寺公民館にて国際理解出前講座を開催し、70名が参加しました。

講師は、夢前町出身の赤錆千春さん。特別支援学校の教師として働いた後、2018年からJICA海外協力隊の活動でエクアドルに滞在し、エクアドルで障害児教育に従事されました。



赤錆さんは、2023年4月29日から7月3日までの66日間、フランスからスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ(キリスト教の三大聖地のひとつ)を目指す巡礼路を歩きました。世界各国から多くの人が足を運び、2024年は約50万人が巡礼路を歩きました。ただし、巡礼路を歩いたと認められる条件が「徒歩か馬」なら100km以上、「自転車」なら200km以上ということなので、実際にはもっと多くの方が訪れているそうです。日本人は1500人程が訪れましたが、韓国で巡礼路「フランス人の道」が紹介されたため韓国からの参加者が多く、標識や看板の言語はスペイン語、フランス語、英語、韓国語だそうです。巡礼路とはいいますが、宗教的な理由以外で歩く人のほうが多いそうです。

赤錆さんは、ル・ピュイ・アン・ヴァレイからフランス国内4大巡礼路の中で最も美しいというル・ピュイの道を歩いてフランスとスペインの国境近くにある街・サン・ジャン・ピエ・ド・ポーへ向かいました。そこからフランス人の道を歩いてサンティアゴ・デ・コンポステーラに到着して大聖堂を訪れました。最後は少し足を延ばして「世界の果て」という意味のあるフィステーラ、シーフードが美味しいムシアまで歩いたそうです。

地図や美しい景色の写真を交えて語られる様々な人との出会いやアクシデントの数々は、とても興味深く面白いものでした。先輩巡礼者からのアドバイス、食事や宿泊などの巡礼路事情、行き当たりばったりで歩く人や迷子になる人への心配りが様々な国の巡礼者同士で共有されてバトンのようにわたっていく様などからは、巡礼路の人たちのコミュニケーションの様子が生き生きと浮かびあがってきました。

言葉も、文化も、歩く理由も、距離も、日程も異なる人たちが、駆け引きや損得なく助け合い励まし合い、同じ場所を目指して歩きます。行き交う巡礼者は「ブエン・カミーノ！（良い巡礼を）」と声を掛け合うそうです。少しお遍路さんに似ています。

たくさんの皆さんに講座にご参加いただき、ありがとうございました。ブエン・カミーノ！